

レバノン赤十字社学校防災事業「みらいぶらりい」最終報告書

報告者: 村中 千廣 (国際医療救援部主事)

派遣期間: 2019年6月3日～12月15日

派遣地: レバノン共和国

私は2019年6月初旬より、レバノン共和国へ派遣され、日本赤十字社(以下、日赤)が支援を行っているレバノン赤十字社(以下、レバノン赤)のシリア難民支援事業の事業管理業務を担っております。同国では現在、日赤は現地姉妹社による3つの異なる事業を支援しており、その内の1つがレバノン赤が実施している学校防災事業です。2019年12月13日をもって現地での業務を終えましたので、報告いたします。当事業は、当院国際医療救援部が国際ソロプチミストアメリカ日本中央リジョン様からいただいたご寄付をもとに始まったもので、日本において、「未来」と「Library(図書館)」を掛け合わせた「みらいぶらりい」という愛称で親しまれています。事業発足の背景および詳細につきましては、当院ホームページに掲載の2018年度報告書をご覧ください。

当事業は、2019年の[中間報告書](#)で報告させていただいたとおり、同国第3の都市サイダにある公立校3校を対象として実施されました。アイン・エル・ヘルワ公立小学校の工事につきましては、昨年前期中に改修工事が完了しておりましたが、その他2校につきましても無事に工事が終了しました。

学校名	英名	Ain El Helwe Mixed Primary School	Ghazieh Mixed School	Al Islah Intermediate Mixed School
	和名	アイン・エル・ヘルワ共学小学校	ガジエ共学学校	アル・イスラ共学中学校
所在地	サイダ(南部 第3の都市)			
創立		1960年	2013年	1969年
学生数	レバノン人	77	418	833
	シリア人	25	833	467
	パレスチナ人	34	81	234
男女比率(男:女)		43:57	46:54	49:51
年齢		3.5～13歳	6～16歳	6～16歳
改修対象		講堂	校庭	図書室
備考		同国最大のパレスチナ難民キャンプに隣接しており、様々な武力衝突が多発する地帯である。	コンクリート製の校庭(遊び場)には深い切りこみがあり、転倒事故やけがの原因になっている。	天井、床、壁、本棚の経年劣化。

2019年に支援した学校3校の基本情報

ガジエ公立学校 – 校庭改修

転倒事故の原因となっていた同校の校庭は改修が成され、約10日間の工事を経て、見事に広々とした平らな状態となりました。年間10数件も報告されていた怪我の件数は改修工事が完了以降ゼロに留まっているとして、同校の校長先生も喜ばれていました。同校は現在、改修された校庭に遊具を設置する計画を立てているとのこと。

改修前(2019年6月13日)



事故の原因となっていた深い溝

改修後(10月15日)



コンクリートで埋められた溝



歩くだけでも注意が必要であった校庭



様々な用途で使用が可能になった校庭



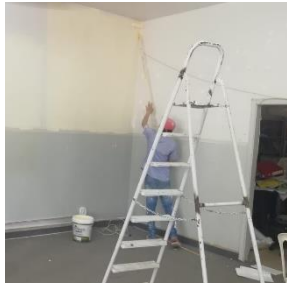


写真提供: Ghazieh Mixed School

アル・イスラ公立中学校 – 図書室改修

当事業の名前の由来のとおり改修対象が図書室となった同校でも無事に工事の全過程が終了し、図書室は早くも子どもたちに開放されています。劣化が目立っていた床板や壁紙は新調され、損傷していた電気の配線や電灯も修理が施され、子どもたちが学習するための明るく快適な空間が完成しました。以前は本棚の数が足りずに書籍が床に積み上げられている状態でしたが、書籍収納スペースが拡張されたため、全ての書籍が本棚へ収まるようになりました。早速、図書室を利用した授業が組み込まれ、受益者は全学年の子どもたちに及んでいます。学校は書籍のラベル付けを行い、アーカイビングのシステムを整備する予定です。

図書室で読書の時間を過ごす学生数名にインタビューを行ったところ、いずれの学生も「読書に対するパッションを発見できた」という旨の発言をされており、プロジェクトによる効果を早くも目の当たりにしました。

場所	改修前 (6月13日)	改修中 (9月) 写真提供: レバノン赤十字社	改修後 (10月15日)
床			
	劣化した床	絨毯が剥がされる様子	木製のフローリング
配線			
	剥き出しの配線		修理された配線
壁			
	ひび割れた壁		修繕が成され、部屋の3面に本棚が設置された壁
本棚			
	利便性の低い本棚	本棚を組み立てる様子	増設・新調された本棚

蛍光灯		/	
	蛍光灯のない電灯		設置された蛍光灯
壁紙			
	損傷の激しい壁	壁を修繕する様子	明るい色に塗り替えられた壁
図書室		/	
	全体図 (正面より)		全体図 (正面より)

病院を筆頭に多数の医療施設を有する日赤は、医療という分野における支援活動を大きな強みとしていますが、この度は医療とは異なる分野の支援事業に携わるという大変貴重な機会を与えていただきました。活動の実施者や受益者から現地で生の声を聴かせていただけるという体験は、何ものにも代えがたい貴重なものでありました。当事業の実施に関わるレバノン赤のスタッフには事業の運びや現地の文化について様々なことを教えていただき、教育や建築などに関わる非医療分野の支援活動に対する知見のみならず、同地域（中近東）の難民問題や文化に対する個人的な興味なども一層深められる機会となりました。

「失われていた教育の機会を取り戻した」という、アル・イスラ校でインタビューさせていただいた、とある学生の喜びの感想が当事業における派遣期間を通して、報告者の心に強く残りました。日本に住む私たちの多くが、長い人生を通して当然のように受け止めている「教育を受ける権利」が世界の多くの子もたちにとっては当たり前ものではないという事実、そして当たり前ものではないという事実自身に長らく目を向けずに生きてきたという事実、ふと衝撃を受けました。新しい図書館で目を輝かせながら本を読む子どもたちを目の当たりにして、国内外問わず全ての子どもたちが満足に教育を受けられる社会を構築するためには、個人個人が身の回りで出来ることに取り組んでゆかなければならないと強く感じました。

今後とも日本赤十字社、大阪赤十字病院へのご支援をよろしくお願いいたします。